

三鷹駅南口ペDESTリアンデッキ
長寿命化修繕計画（改定）

令和5年3月

三 鷹 市

目 次

	頁
第1章 計画の概要	1
1 背景	1
2 計画の目的	1
3 ペDESTリアンデッキの概要	3
3-1 位置図	3
3-2 概要	3
4 予防保全型維持管理	4
5 長寿命化修繕計画の基本的な考え方	5
5-1 計画期間	5
5-2 計画策定の流れ	5
第2章 基本条件の設定	6
1 定期点検結果	6
1-1 点検実施状況	6
1-2 損傷状況概要	7
1-3 健全性の診断	9
2 補修方針	10
3 現況構造の改修	11
3-1 デッキ舗装の改修案	11
3-2 大屋根及びスロープ上屋の改修案	13
3-3 電気設備の改修案	14
第3章 長寿命化修繕計画	15
1 長寿命化修繕スケジュール	15
1-1 概略予定	15
1-2 計画表	17
第4章 ライフサイクルコスト(LCC)算出の設定.....	19
1 概算工事費算出と補修材の耐用年数の設定	19
1-1 概算工事費算出	19
1-2 補修材の耐用年数	19
2 設計委託費用及び定期点検委託費用の設定	20
3 ライフサイクルコスト(LCC)	20

第1章 計画の概要

1 背景

三鷹駅南口ペDESTリアンデッキ（以下、「ペDESTリアンデッキ」という。）において、1993年度（平成5年度）に完成の第1期工事部分は、供用開始から25年以上経過しており、不具合の発生が年々増加しています。2020年度（令和2年度）に実施した点検の結果、構造的に緊急な修繕が必要な箇所は見つかりませんが、今後の予防保全の観点から一定の措置が必要なことから、安全性、利便性及び経済性を考慮しながら、計画的かつ段階的な修繕に取り組む必要があります。また、ペDESTリアンデッキの修繕工事等を実施するにあたっては、工期が長期間に渡ることが想定されるとともに、現況形状の変更等も必要となることから、長期的な視点に立った効率的かつ柔軟な修繕計画が必要となっています。

一方、国においては、事前防災及び減災等の観点から、国土強靱化基本法に基づく国土強靱化計画を策定し、老朽化が進む公共施設やインフラ施設等について、効果的・効率的な対策の実施と適切な維持管理を推進する等の取り組みを進めています。

2 計画の目的

2021年（令和3年）9月に改定した「三鷹市橋梁長寿命化修繕計画」では、「最小限の維持管理を行う対応（経過観察型）」に「大規模な修繕・架替えを行わないことを前提として予防的な対策を行う対応（予防保全型）」を加えて、維持管理計画を取りまとめています。ペDESTリアンデッキにおいても、同様の予防保全型の考え方を取り入れ、常に健全な状態に保ち、市民生活に欠かせない安全・安心な駅前道路ネットワークを確保することに併せ、ライフサイクルコストの縮減を図ることを目的とします。

「三鷹駅南口ペDESTリアンデッキ長寿命化修繕計画」は、2018年（平成30年）12月に策定していますが、これまでに取り組んだ修繕工事と令和2年度に実施した最新の定期点検結果を踏まえ見直しを行い、利用する市民等の安全な通行や公共構造物の更なる健全な保全を図ります。さらに対策工法・単価の見直しを行い、より実勢に近いライフサイクルコストの推計を行うことを目的とします。

表 1-1 維持管理区分

維持管理区分	維持管理方法
事後保全型 (対症療法型)	損傷が深刻化した時点で、大規模な修繕・架替えを行う。
経過観察型	定期点検を行いながら最小限の維持管理を行う。将来的には、大規模修繕・架替えが必要となる。
予防保全型	大規模な修繕・架替えを行わないことを前提として、定期点検を行いながら予防的な対策を計画的に行う。

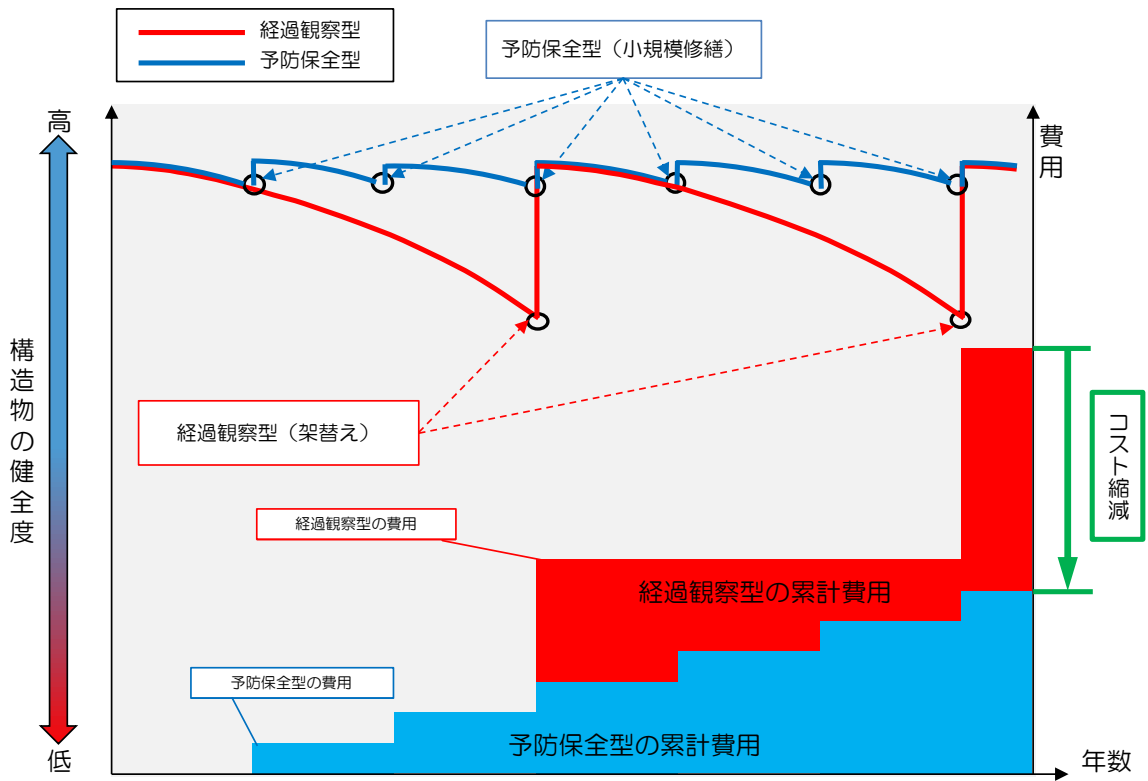


図 1-1 経過観察型と予防保全型のイメージ図

3 ペDESTリアンデッキの概要

3-1 位置図

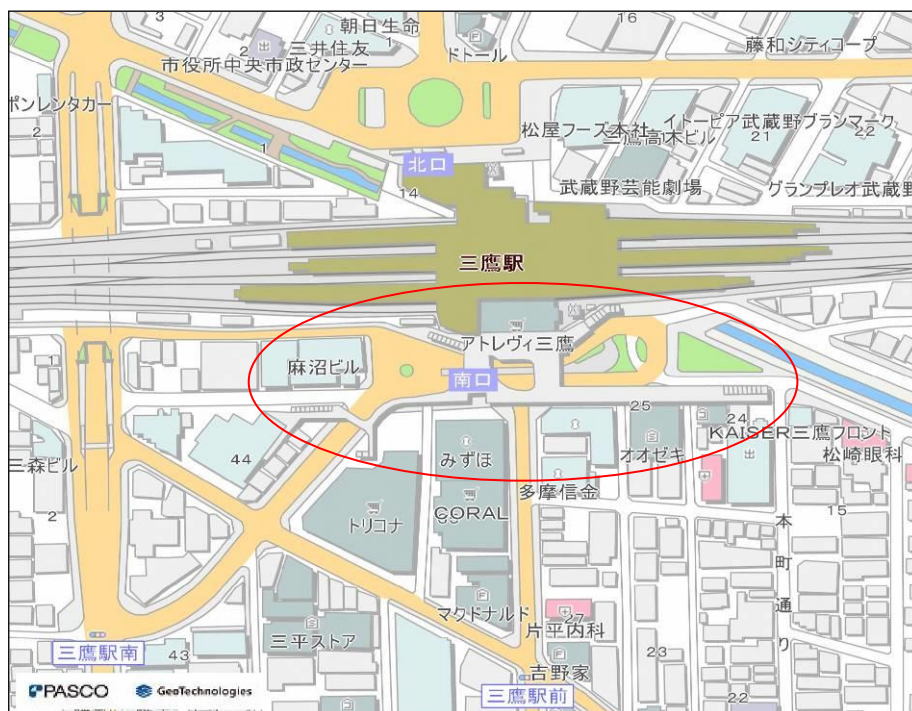


図 1-2 位置図

3-2 概要

ペDESTリアンデッキは、第1期工事として、現在のペDESTリアンデッキのほぼ中央から西側部分が1993年（平成5年）9月に竣工、第2期工事として、中央から東側部分が2006年（平成18年）3月に竣工しました。また、2007年（平成19年）3月には、三鷹駅南口西側地区協働ビルへの接続により、西側デッキが竣工しています。

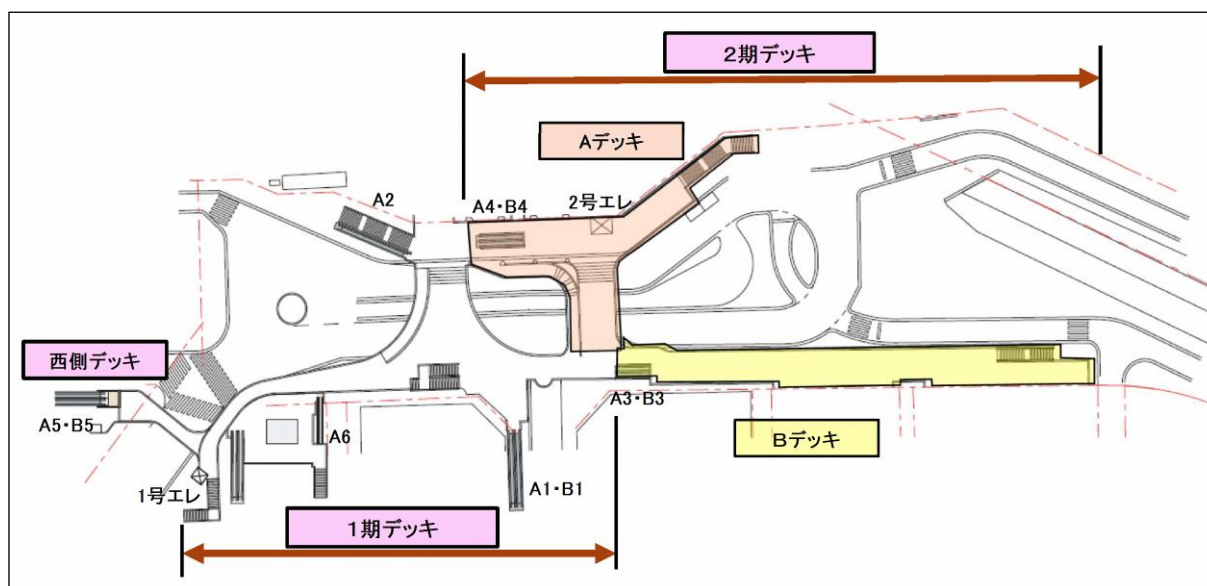


図 1-3 全体平面図

表 1-2 対象橋梁諸元表

デッキ名	竣工年	軒天化粧パネル構造	桁形式	補修履歴 (維持工事は除く)
1期デッキ	1993年(平成5年)	パネルなし	デッキ床版鋼箱桁	2006年タイル舗装改修 2019年化粧板撤去 2021年塗替塗装, 排水 管取替, 伸縮装置取替
2期デッキ (Aデッキ)	2006年(平成18年)	ルーバー型	デッキ床版鋼箱桁	2021年伸縮装置取替
2期デッキ (Bデッキ)	2006年(平成18年)	ルーバー型	デッキ床版鋼箱桁	2021年伸縮装置取替
西側デッキ	2007年(平成19年)	ルーバー型	H形鋼主桁デッキ PL床版鋼桁	2021年伸縮装置取替

(1)パネルなし (1期デッキ)



(2)ルーバー型 (2期デッキ)



写真 1-1 軒天化粧パネル構造

4 予防保全型維持管理

5年に1回の定期点検の結果をもとに、現状で損傷している箇所を初期段階で修繕します。その後は、架替え等を行わないことを前提とした予防的な対策を行い、それを繰り返すことで、常にペDESTリアンデッキを健全な状態に保ちます。この手法の維持管理を行うことにより、安全・安心な駅前道路ネットワークの確保とライフサイクルコストの縮減を図ることができます。

予防保全型の維持管理を行うためには、点検結果のデータの分析と、今後、ペDESTリアンデッキの各部材がどのように劣化していくのかを予測し、その劣化に合わせた修繕の計画を立てる必要があります。

5 長寿命化修繕計画の基本的な考え方

5-1 計画期間

本計画は、社会情勢の変化や材料費等の変動による適正なコストの算出への影響を考慮し、ペDESTリアンデッキは道路橋梁と同様の考えに基づく施設であることから、2021年（令和3年）9月に改定した「三鷹市橋梁長寿命化修繕計画」と同様に50年間について計画を策定します。計画期間50年以降については、その時点での施設の状況や社会情勢等を踏まえ、その後の修繕計画等の検証を行います。

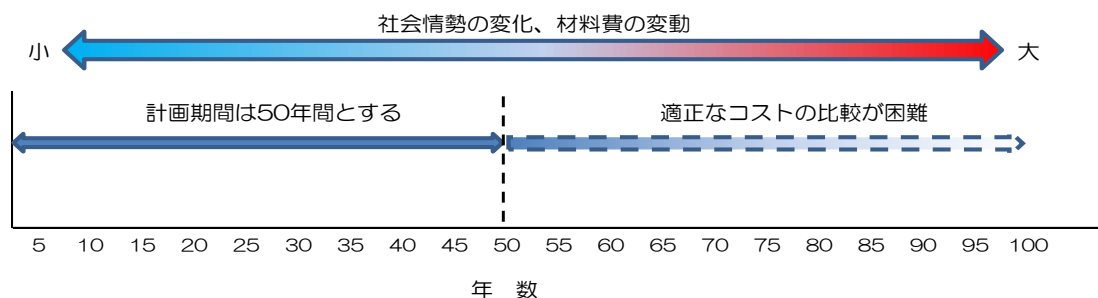


図 1-4 計画期間イメージ

5-2 計画策定の流れ

定期点検及び日常的な点検結果等から、現在すでに損傷が確認できている2018年（平成30年）12月に策定した長寿命化修繕計画によって、第一期施工とした1期デッキの化粧板撤去や排水管取替え等の修繕は、2022年（令和4年度）に修繕等が完了しています。このため、本計画は、2023年度（令和5年度）以降に必要な維持管理費（設計委託費、修繕費、点検費等）についてライフサイクルコストを算出して修繕計画を策定します。なお、本計画では、概ね2031年度までに主要な修繕工事が完了するスケジュールとしています。

以降は、5年に1回の定期点検の結果を基に、その都度、必要に応じて修繕計画及びスケジュールを見直していくこととします。昇降機設備（エスカレーター・エレベーター）については、年間管理委託で点検・修繕を行っているため、本計画とは別として

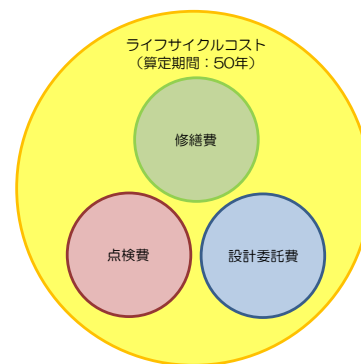


図 1-5 ライフサイクルコスト

表 1-3 計画区分の考え方

計画区分	対象とする修繕	本計画内での取り組み期間
短・中期的計画	2020年度（令和2年度）に行った定期点検結果に基づき、改修を行う。	2023年度～2031年度
長期的計画	定期点検を行いながら予防的な対策等を計画的に行い、概ね5年以内は大規模な修繕を必要としない健全度を維持していくものとする。	2032年度～2072年度